

授業改善プラン

地域名	葛南教育事務所	学校名	市川市立塩焼小学校
-----	---------	-----	-----------

1. 課題（これまでの全国学力・学習状況調査結果等から）

令和4年度の全国学力・学習状況調査の分析から、思考力を問う設問の正答率が高いが、「書くこと」では、正答率が低い傾向にあった。無解答が少ないことから、意欲はあるが自分の考えを文章化することできない、もしくは問題文の要約になってしまうことがわかった。

2. 取組のポイント（仮説、改善方法等）

検証では、思考力を伸ばし表現する「書くこと」に焦点を当てて取り組んできた。学年や教科単元、児童の実態に合わせ、日記や作文、提案文など年間を通して教科等横断的に行った。

3. 具体的な実践

- 『「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラム』に沿い、次の取組を行った。
- ・学習の見通しをもたせ、学習のゴールを明確にする。
 - ・自分の考えを文章化する、読み手を意識して書く。
 - ・推敲し、作成した文を読み合い共有し、振り返りをする。
 - ・学んだことをまとめ、次回へと活かす。継続的にやっていく。

4. 成果

『「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラム』のサイクルに沿った授業計画を立て実践することで、児童らの「書く力」の育成に努めた。令和6年度の全国学力・学習状況調査では、それまでに比べ無解答率が減少し、正答率が上がった。また学習指導要領の内容項目全てにおいて全国平均を上回り、力を付けていることがわかる。今後も「書くこと」に継続的に取り組み、正答率の低かった主語述語、修飾語などの文法も含め定着させていきたい。

◆担当指導主事から

相手意識や目的意識が明確になっていたことで、児童が見通しをもって主体的に取り組んでいた。観点を絞った振り返りや、推敲のポイントを明示することで、書いた文章を振り返る視点が明確になる。全国学力・学習状況調査の結果分析をもとに付けたい力を焦点化し、授業改善のサイクルを確立させていくことが大切である。